

## 『テーブルマスク®は当社の誇り』

### 株式会社昭和丸筒

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別なご高配を賜り、誠にありがたくお礼申し上げます。

2022年もより一層のご支援、お引立てを賜りますようお願い申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

「人にはマスク、テーブル・デスクにはテーブルマスク！」

この「テーブルマスク®」という商品名とキャッチコピーは当社社長発案の絶妙なネーミングとコピーです。2020年4月22日発売開始、現在で累計11万枚の販売実績です。

当社オリジナルの梱包材「ソノポスト」をスタンドとし、透明ボードを組み合わせた飛沫感染防止パーテーションで、2020年8月には1日で2,000セット以上を出荷した日もありました。

きっかけは…研究開発部の部員が自作していたパーテーションを社長の湯浅が見かけ、まずは従業員を守るべく、全国10拠点の工場の食堂に設置。

「これは売れるかもしれない」…

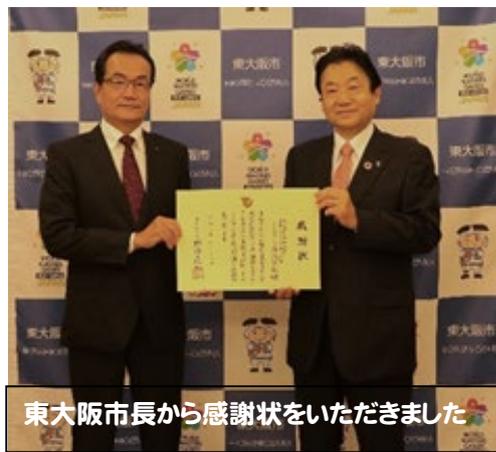
「買うなら安い方が良い、イチキュッパ（1,980）やろー」…  
ということで破格の定価が3秒で決まり、通販サイト立ち上げ、実働5日で販売を始めました。

製造部門も近隣企業や飲食店などにチラシ配りの「全員営業」！

毎月の全社朝礼で販売実績を顔写真入りの「番付」にして全員営業を盛り上げました。注文のピーク時には営業、間接部門も生産に駆り出し、納期を遵守しました。

リードタイムはご発注後3日以内とし、QCDともにNo.1のパーテーションを確立できたと自負しています。

企業だけでなく、病院、介護施設、幼稚園、保育園、小中学校、高校、大学へも販売、東大阪市役所の食堂、大阪府庁への寄付も行い、従業員が自社製品による直接的な社会貢献を実感できた商品です。



東大阪市長から感謝状をいただきました



大手食品メーカーの食堂



保育園

## 『多文化共生ガーデン』

### 寿紙管工業株式会社

新緑の香りがすがすがしい季節になりましたが、未だに新型コロナウイルスの感染終息の見通しがわからない中、ロシアによるウクライナ侵攻による資源供給不足等、紙管業界も苦悩に立たされる日々が続いておりますが、こういう時こそ紙管業界一致団結して苦悩を乗り越えて行きましょう。

今回、弊社による社会貢献活動事例をお話させていただきます。活動のきっかけとなったのが2018年の全国紙管工業組合同研修会で講演して頂きました建築家坂茂氏が設計された建築物で紙管で出来た教会が紹介されたのがきっかけでした。

1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災の影響で、神戸市長田区にあります教会の聖堂が全焼しました。その後に救済基地としてボランティア活動の拠点となりました。

1995年9月に坂茂氏の設計による紙管を使用した仮設集会所兼聖堂建てられ、「紙の教会ペーパードームたかとり」として復興と地域住民の交流のシンボルになりました。

2007年に仮設聖堂を手掛けた坂茂氏設計によって新聖堂が完成し、カトリックたかとり教会が誕生しました。新聖堂には、仮設聖堂で使用されていた紙管を柱の一部として使用されています。

2019年全国紙管工業組合同青年部会の運営委員として活動していた際、当時の理事長の下畦氏、青年部会長の鈴木陽氏のご協力のもと、青年部会の研修会場として、教会の訪問、教会内にありますFMわいわいのスタジオを使用して、YouTube生配信を実施しました。



研修開催にあたってお世話になりましたFMわいわい総合プロデューサー金千秋氏とのご縁で、神戸市長田区で震災をきっかけに空き地となってしまう今なお手付かずになっている土地を活用する神戸市の「空家・空き地地域利用応援制度」を活用して、空き地の活性化のプロジェクトの一環として、紙管を外壁に使い、排水溝の土台として紙管を無償提供を行い、ワークショップ整備や作業のお手伝いをさせていただきました。

土地が整備されてからは長田区在住のベトナム人の方々によって本格的に農作業が始まり、パクチー、レモングラス、空芯菜など約15種類の野菜を育てられて近隣の方々に野菜のおすそ分けなどを通じて、多文化共生への第一歩として注目されています。



四半世紀経った今でも、自然災害がもたらした影響が今なお残っております。震災から自分達の手で立ち上がろうとされてる方々へ微力ながらお手伝いをこれからも続けていき、紙管を通じて人とのつながりや助け合いを大切にしていきたいと思っております。

## 『 ス ポ G O M I 』

### 北海紙管株式会社

初秋の季節とはいえ暑い日が続きますが、組合の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今回、社会貢献事業活動の紹介ということで、素晴らしいタイミングでお話いただけたことを嬉しく思います。

実は、当社では、毎年9月頃に「ほっかいもっかい杯 スポGOMI大会 in 札幌」というイベントを開催しています。

このイベントは、子どもたちを対象に気軽に楽しみながら環境意識の向上を促すような試みが出来ないかという思いから、過去9回にわたり「スポGOMI」を開催し、これまで多数の方に参加していただきました。また、昨今では、企業活動において「SDGs」への配慮が重要になってきていて、「スポGOMI」もSDGsの取り組みのひとつだと認識しています。



そもそも「スポGOMI」とは、決められたエリア内で、制限時間内に、チームでごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合うスポーツイベントです。一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブが、ルールを策定したことで、全国・海外にまで広がり、今まで約1,000大会開催されているそうです。半日で終わるイベントスケジュールが多く、激しい動きもないので、老若男女問わず参加でき、気軽に楽しむことができるスポーツです。

当社では、「地元・北海道札幌市への地域貢献を」ということで、行政や地元の商店街とコラボレーションし、その地域や商店街を知る「仕掛け」を作りながら、大会を運営しています。例えば、イベント終了後に地元飲食店を利用してもらえるように、ゴミを拾うエリアのマップに飲食店情報を加えたり、ご当地のゆるキャラを大会に登場してもらいPRしたり……。

そんな大会をコロナウイルスの影響で2年間開催を延期していましたが、このたび2021年9月10日の大会開催が決定し、今は準備の真っ只中です。延期していた分、より一層参加者の皆様に会えるのを楽しみにしています。

今後も地域貢献やSDGsの活動を続けることで、当社の業務や紙管業界を知るきっかけになれば幸いです。



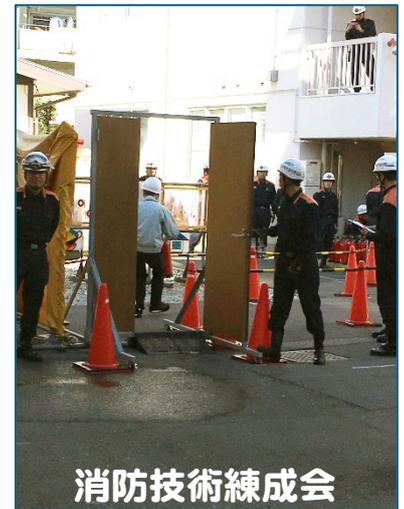
## 『地元地域への関わり』

### 日本紙管工業株式会社

弊社の社会貢献としてまず挙げることができることは、地元各種団体（防犯・防災・交通安全等）に所属し、積極的に地域と関りをもって活動していることです。

防犯の分野であれば、地元警察の啓発活動に参画し、コロナ前までは街頭にて「特殊詐欺」の防止啓蒙グッズを配布したりしていました。交通安全の分野でも全国交通安全週間期間の啓発活動等に参画し、地元の商店街を回り住民の皆様へ声掛けなどを行っていました。

防災の分野では、消防署主催の自衛消防協議会というものに参加しており、毎年1回「消防技術練成会」という消防技術を競う大会に出場し、消火技術の腕を磨いたりしています。その他にも地元主催の防災訓練に参加することもありました。



また、社内におきましては全拠点共通事項として、会社周辺の清掃活動を行っております。大阪本社におきましては、毎週2回男性社員が中心となり、分担して周辺清掃を行っておりますが、続けていくうちに当社だけではなく近隣の企業も清掃活動を始めると、輪も広がってきているのではないかと感じております。清掃活動＝5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の一環と捉え、今後も引き続き継続していきたいと考えております。

さらに、定期的ではございませんが、日本赤十字社の依頼により年1回か2回、会社にて献血を行っております。街のショッピングモールでよく見かける献血バスを会社の駐車スペースに止め、社員はもとより周辺住民の皆様にも、ポスター等で事前に掲示しておき、ご協力をいただいております。社員全員が献血できるわけではありませんが、相当数の社員が毎回の献血に協力するなど積極的に協力しています。

工場におきましては、NPO法人や幼稚園などに当社の紙管を無償提供し、おもちゃなどの部品として使用していただくなど行っております。

以上、当社といたしましては、事業発展だけでなく、地元活性化等に資する社会貢献を今後も続けていきたいと考えております。



紙管提供

## 『 地元 地域 への 貢献 』

### 立山製紙株式会社

富山県の立山町にある当社は、製紙部門とそれを加工する部門(紙管、平板貼り合わせ)があります。立山町で創業して、今年で105年目となる企業のため、地域住民との交流はもとより地域への貢献は欠かせないものであり、ここに何件か事例を紹介させていただきます。

#### I. 献血協力

毎年、血液が不足する7月～8月に実施しています。

この献血協力は37年前から継続して実施しており、令和2年には厚生労働大臣より感謝状を授与されました。



#### II. 六渡寺海岸の清掃

毎年、実施されている清掃キャンペーンに3年前からボランティアで参加しています。

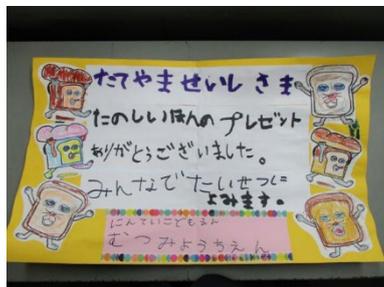
一級河川である庄川と小矢部川の合流地点で、川に流れた家庭ゴミが海岸に漂着するため、大量のゴミが海岸を汚していますが、清掃後は見違えるようにきれいな海岸線が蘇ります。



清掃後



#### III. 図書の寄贈



立山町の図書館へ芥川賞、直木賞の受賞作品や本屋大賞受賞作品を寄贈しています。

図書館の中には、昭和55年に寄付した立山製紙文庫があります。人気のある作品は、贈呈後数年経過しても貸出しが続いています。

また、毎年町内の古紙回収でお世話になっている立山町の小中学校、保育園、幼稚園に学習マンガ、事典、絵本等を寄贈しています。



#### IV. 森づくりボランティア活動に参加

令和4年に富山県経営者協会主催で行われた、緑の里山保全森づくりボランティア活動に参加し、1.1haの下草刈りを行いました。きれいになった2週間後に植樹が行われました。



#### V. 地元の高校へ電子ピアノ3台を寄贈



令和4年、地銀と連携して寄贈型のSDGs私募債を発行しました。

この利息の一部を電子ピアノ3台として贈呈しました。

コロナ禍で休止していた合唱コンクールを再開したいと大変喜んでいただきました。

まだまだ、紹介したい事例はありますが、今回はここまでとして、今後も地域との繋がりを大切にして貢献していきたいと思っています。

## 『大にぎわいの「子育て支援メッセ in たつの」』

### 米谷紙管製造株式会社

毎年、兵庫県内で開催されている「子育て支援メッセ」が、2024年2月23日（祝）に地元たつの市で開催されることになり弊社も出展しました。

たつの市は、兵庫県の南西部の西播磨地域に位置し、南北に貫く形で揖保川が流れており、自然環境に恵まれた地域になっています。播州平野の豊かな小麦と良質の大豆、赤穂の塩、清流揖保川の水などに恵まれ育まれてきた手延素麺「揖保乃糸」、ヒガシマルのうすくち醤油、ブンセンの海苔佃煮「アラ！」などが地場産業として古くから親しまれています。

兵庫県では、子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりを通して子育てに関する相談や情報交換等を行う「まちの子育てひろば」の開設を進めており、その事業の一環として、毎年、兵庫県内にて「子育て支援メッセ」が開催されています。子育て支援団体や企業、行政などが集まって、子育て中のパパ・ママ、サポーターをつなげていこうというイベントです。



今年は弊社の近くにある、たつの市新宮ふれあい福祉会館という場所にて開催されました。消防車・救急車の展示、段ボール迷路、さかなつりゲーム、工作のワークショップ、紙芝居やうたのステージなどなど、子どもたちが喜ぶような企画が満載です。

当社は、“紙管にふれて、紙管の魅力や可能性を知ってもらうとともに、地域の方に米谷紙管製造を知ってもらう”ということで「紙管玩具ブース」を企画しました。紙管でつくる太鼓、ドリームキャッチャー、輪投げゲームやストラックアウト、なかでも当社のエーワンチューブ（ボイド管）に入ってコロコロ回すホイールのアトラクションが人気でした。直径1.2m x 長さ1mもの巨大ボイド管に子どもたちは目を輝かせ、つぎつぎに、ボイド管に入ってはコロコロ回り、遊んでいました。面白そうだったのか、兵庫県のゆるキャラである「はばタン」も中にはいり、周囲の心配をよそにクルクルと転がって遊んでいました。



会場全体で、約700名弱のご家族にご来場していただきました。ふだんは一般のお客様と接することが少ないのですが、子どもたちの笑顔を見ると幸せな気持ちでいっぱいになりました。様々な紙管にふれて、体験していただくことにより、「地域社会に紙管の魅力と自社を知ってもらう」という今回のテーマは、じゅうぶんに達成できたかと思えます。こういった活動を継続していくことにより、ゆくゆくはお客様から紙管の新たな使い道を提案していただいたり、人材確保が地元でまかなえる等、さまざまなメリットが生み出される可能性が開かれるものと思えます。今後も紙管を通じて社会貢献に励んでいきます。



## 『 地 域 清 掃 活 動 』

大三興業株式会社

弊社の社会貢献の一環として年に2回、会社周辺の清掃作業を行っています。

たばこの吸い殻やごみ等を拾い、道端の草むしりをします。

清掃活動＝地域貢献であり、また5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の一環と捉え今後も引き続き継続していきたいと考えております。



また、ここ数年は、コロナ禍で実行できておりませんが、近隣の小学生を招いて、夏休み工作教室を開催し、紙管を用いて万華鏡等制作のお手伝いをしています。

以上、当社といたしましては、事業発展に加えて、地元活性化等に資する社会貢献を今後も続けていきたいと考えております。



## 『地域社会貢献(地域環境美化活動) 「地域の方に感謝の心を伝えます」』

佐賀板紙株式会社

私たち佐賀板紙株式会社は、地域社会貢献活動の一環として、会社周辺の地域・駅周辺の定期的な清掃、ゴミ拾いなどをさせていただいております。私たちがこの地域で企業活動が行えるのは、地域住民の皆様のご理解とご協力のお陰だと日々感じております。そのため、私たちとして環境美化活動という形で感謝と奉仕の気持ちを体現させて頂く意味で活動させていただいております。

エコアクション21を認証取得した2012年からは、計画的に夕方16時に社員と協力会社の方で集まり、地域の清掃活動を、現在は3か月に1回のペースで活動しております。

この活動は、地域の方々と挨拶を通じてのコミュニケーションの場ともなっており、温かい言葉で、心が温かくなります。またその活動そのものを見ていただく事で、今まで何気なくゴミを捨てていた方が、ほんの少しでもゴミを捨てない気持ちになって頂ければ、この活動はすごく意義あるものだと思います。

実際に参加者からは、「年々地域のゴミが減っており、自分自身の環境への意識も高まった」という声が上がると、社内にも良い影響を及ぼしています。

佐賀板紙は今後も地域環境美化活動を通じて、地域の方に感謝の心を伝えながら、社会貢献に努めてまいります。



余談になりますが、2024 SAGA International Balloon Festa「空はひとつ。感動は、人の数だけ」が10/31～11/4の日程にて、佐賀県嘉瀬川河川敷で開催され、世界各国から128機が集まり、色とりどりのバルーン熱気球が佐賀平野の大空を舞いました。

生憎の大雨で、河川敷が水に浸かってしまい、出店等はすべて引き上げ、競技は初日と最終日のみという、大変な開催とはなりましたが、王子マテリア・佐賀板紙連名でのバルーン熱気球機が競技飛行に初参加し、佐賀の上空を空高く舞い上がりました。また最終日の夜は音楽に合わせ、バーナーの炎で美しく光る夜間係留が行われ、幻想的な光景が広がり観客を魅了させ、感動を与えてくれました。

皆さん、佐賀に来られた際は、是非SAGAバルーンフェスタにお越し頂き、佐賀板紙のバルーン熱気球機が大空を舞う姿を見て頂きたいと思います。

最後になりますが、会員各社の皆様にはこれからも引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

